

関東地方整備局におけるフレームワークモデル工事（総合評価落札方式）の試行について

関東地方整備局 企画部 正会員 ○岩崎 福久

関東地方整備局 企画部 非会員 村野 祥平

1. 背景・目的

関東地方整備局管内では、令和元年の台風第19号（令和元年東日本台風）により、直轄及び県管理の河川の堤防が決壊するなど甚大な被害が発生した。安全・安心の社会を再構築するため、早急に災害復旧に関する工事を発注する必要があるが、これらの工事は、災害が発生した地域に集中し、また同時期に多くの工事を発注することから、受注する建設業界の施工体制の確保が大きな課題となる。

そこで、関東地方整備局では、工事発注の迅速化、施工体制の確保、競争性の確保、手続きの合理化等を目的として、災害復旧に関する工事を対象に、予め、入札に参加できる資格を有する建設業者の希望を聴取し、施工能力を審査した上で、複数の参加業者による指名競争入札を行う「災害復旧推進フレームワークモデル工事」を全国に先駆けて試行することとした。

試行の結果、令和元年度第4四半期に手続きを行った4フレーム26工事のうち、全ての工事において落札決定することができ、施工体制確保に効果があった。一方、災害復旧以外の工事においても、不調不落が懸念される地域、工種があったことから、令和2年5月より「フレームワークモデル工事（総合評価落札方式）」（以下、「FWモデル工事」という）として、通常工事（一般土木工事、維持修繕工事等）へ試行対象を拡大することとした。

本論文では「FWモデル工事」の試行状況及び今後の課題について考察するものである。

2. FWモデル工事の試行の概要及び手続き状況

FWモデル工事の実施手順を図-1に示す。なお、「災害復旧推進フレームワークモデル工事」では、低入札対策として、施工体制審査のみを加算点としていたことから価格競争の傾向が強くなり、災害対応等を担う「地域の担い手」である企業の受注機会への配慮が課題であった。このため、地域建設企業の担い手確保の観点から、災害活動実績を加算点10点とする総合評価落札方式として試行することとした。

令和3年1月末時点までのFWモデル工事における工種別契約状況を表-1に示す。13フレーム46工事で手続き

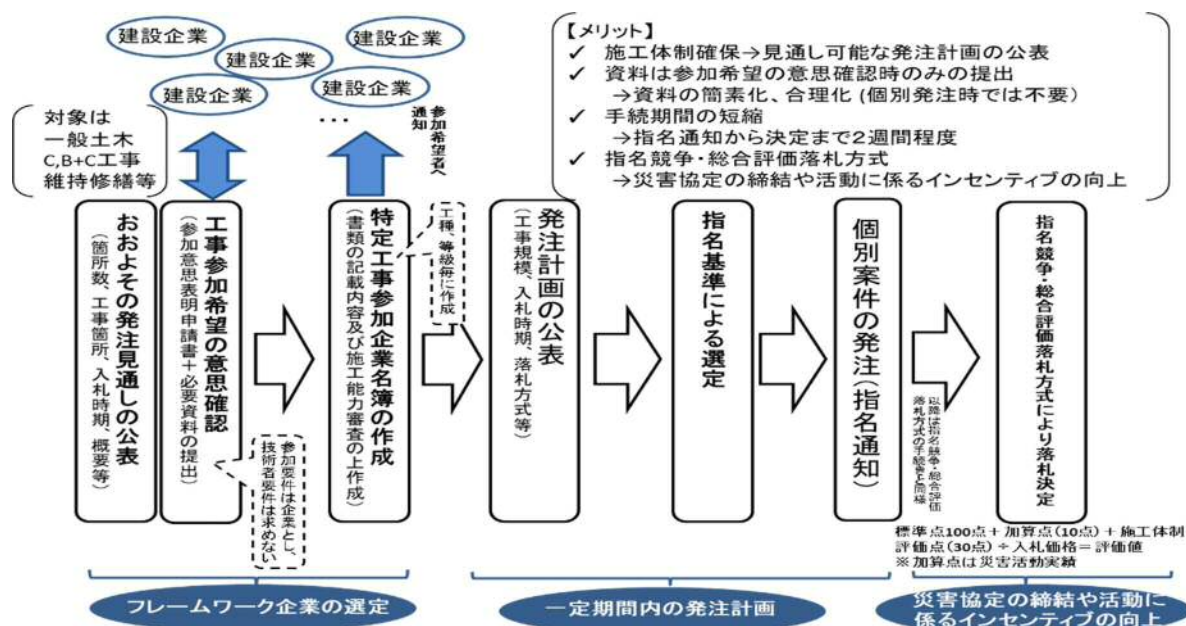


図-1 フレームワークモデル工事（総合評価落札方式）の実施手順

キーワード 入札・契約制度、指名競争入札、総合評価落札方式、施工体制確保

連絡先 〒330-9724 さいたま市中央区新都心 2-1 国土交通省 関東地方整備局 企画部 技術調査課 TEL 048-601-3151

	フレームワークモデル工事（R3.1月末時点）			
	発注 件数	契約 件数	不調不落 件数	契約率
一般土木	35	24	11	69%
維持修繕	6	6	0	100%
河川浚渫	5	5	0	100%
合計	46	35	11	76%

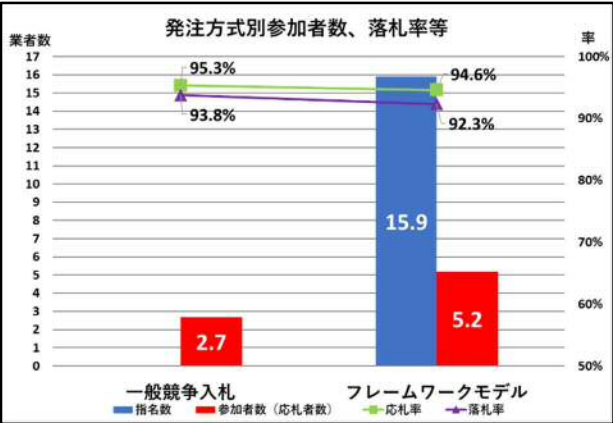


表-1 FW モデル工事の契約状況 (R3.1 月末時点) 図-2 入札参加者数と応札率・落札率 (R3.1 月末時点)

を実施し、一般土木で契約率約 70%、維持修繕、河川しゅんせつで契約率 100%であった。

また、関東地方整備局の令和 3 年 1 月末時点における発注方式別入札参加者数、応札率及び落札率を図-2 に示す。これによると、入札参加者数の平均は、一般競争入札が 2.7 者であるのに比べて、FW モデル工事は 5.2 者となつて、約 2 倍の参加者数を確保できた。また、応札率及び落札率の平均を比較しても、FW モデル工事における競争性は一般競争入札と同様の競争性が確保されているものとする。

3. FW モデル工事の評価

FW モデル工事の試行における効果の評価及び今後の参考とするため、令和 2 年 10 月までに手続きした FW モデル工事の参加企業に対して実施したアンケート調査結果を図-3 に示す。

アンケート調査の結果、FW モデル工事に参加した理由として、“参加申請時に技術者要件を求めない”が約 39%、“1 抜け方式（同一フレームで複数工事の受注はできない）のため受注できる可能性が高い”が約 22%を占めており、約 61%が FW モデル工事のメリットを感じている。その他、“参加申請時に技術者要件を求めない”ことについて約 90%が参加しやすい、“災害活動の加算点 10 点”について、約 55%が妥当と感じており、“今後の参加意欲”について、約 89%が参加したいと感じている結果となった。

また、関東地方整備局で実施した各都県建設業協会との意見交換会においても、FW モデル工事は直轄実績の少ない企業の参加拡大を図る観点からも有効であることから、積極的な活用について要望があった。

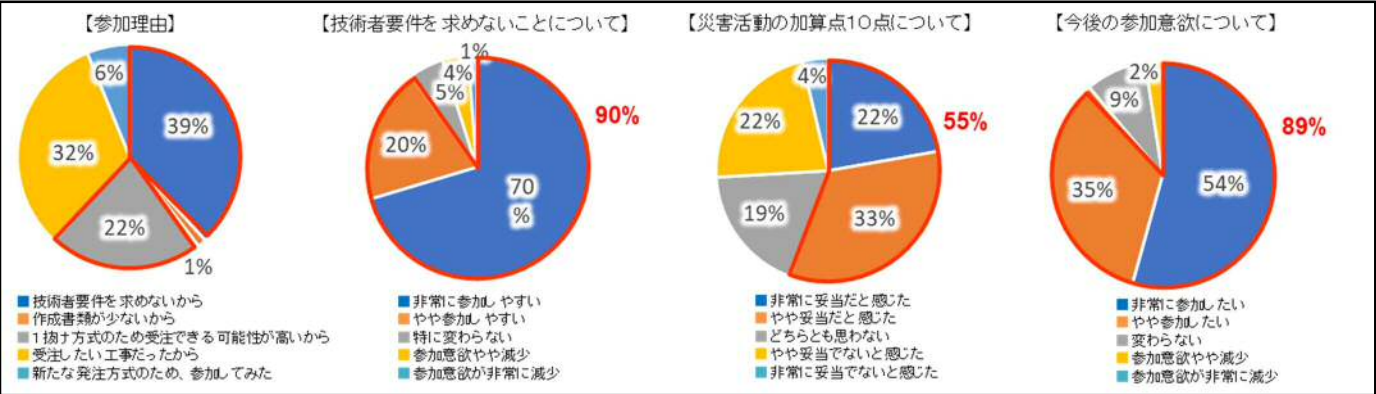


図-3 FW モデル工事に参加した企業に対するアンケート調査結果 (対象業者 110 社のうち、81 社より回答)

4. 今後の課題

FW モデル工事についてはアンケート調査の結果、メリットを感じている企業が多く、施工体制の確保を図るとともに、新規参入や地域担い手確保につながることから、引き続き、試行を継続して参りたい。

なお、今後の課題として、一般土木工事において契約率が約 70%となっていることなどについて、地元建設業協会の状況や意見を踏まえ、参加企業数の増加に効果的な対策を検討していく必要がある。

また、技術者要件を求めないこととしていることについて、一般競争入札と工事成績評定点を比較するなど、品質確保の観点からも問題ないことについて検証して参りたい。